

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1. 事業名称

「生活者としての外国人」が日本語自主学习をしていくためのシステム創生事業

2. 事業の目的

兵庫県では阪神淡路大震災(1997)以降 17 年間に地域日本語教室が各地に生まれ(約80)、ボランティアが中心となって「生活者としての外国人」に日本語学習支援を行ってきた。その結果、彼らが安心して生活でき、地域社会に参加できる体制も徐々に整ってきた。しかし、地域日本語教室での支援方法が旧来の文型積み上げ方式且つ教え込み型であるので、多忙な彼らにとって、週 1 回 1.5 時間~2 時間の活動では日本語習得は難しい。そのために習得半ばで教室参加もままならなくなるような状況が厳然としてある。それらの状況を打開するには学習活動を彼ら自身の手ゆだねることが重要である。そのため本事業では以下を目的とする。

- (1)学習者が日常生活の中で自ら学びうるような学習方法を自らが作り上げていくような(=日本語自主学习)システムを構築することを目的とする。
- (2)過去 5 年間本ネットワークが文化庁委託事業として実施した「退職教員等対象の日本語教育指導者養成講座」のノウハウを活用するとともに、退職教員等のキャリアを活用して日本語自主学习のための協働者となるべき人材を育成する事を目的とする

3. 事業内容の概要

- (1)「生活者としての外国人」が自分の時間を有効に利用し自主学习していくための方法を支援者と共に協働して生み出すような教室活動を行う
- (2)上記のために「生活者としての外国人」とともに協働できる退職教員等を中心とした支援者を養成する
- (3)「生活者としての外国人」が支援者と協働するためおよび学習者が自主学习をするためのマニュアル・資料を多言語教材として作成する

4. 運営委員会の開催について

【概要】

(1)運営委員の構成

本ネットワークのメンバー3名、およびひょうご日本語ネットのメンバー、及び兵庫県、神戸市国際関係課、兵庫県、神戸市教育委員会、地域日本語教育関係者23名からなる。

(2) 討議内容

本ネットワークの本事業の企画を運営委員会で提案し、内容について吟味した。特に広報では運営委員の所属団体の協力を得た。運営委員会で本事業の進捗状況を逐一報告をし、委員からの助言を仰いだ。また、本事業の成果課題について討議をした。

(3) 運営委員会内容

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成 24 年 7 月 19 日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫 県国際交流 協会研修室	丸山巖・ 三木由美子 村松好子 北村俊樹 芝裕子 矢野真也 水野マリ子 斉藤美穂 村山勇 石井真未枝 財部仁子 岸本由紀 奥田純子 元村尚美 内藤儀子 田中香織 長嶋昭親 延原臣二 湯口恵 高橋博子	本事業の趣 旨・目的内容 の承	.1.兵庫日本語ボランティアネットワー ク長嶋より:文化庁から委託決定され た事業内容について説明 2.質疑応答: Q.前年度までの事業内容との違い について:3 事業(教室運営、教材、指 導者養成)が一つの事業になった事を 長嶋より説明 Q.自己主導型日本語学習について: 将来地域日本語教室で学習者が主体 的に学習するためのノウハウを提示 する 3. 本事業について承認
2	平成 24 年 10 月 19 日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫 県国際交流 協会研修室	丸山巖 村松好子 北村俊樹 芝裕子 矢野真也 水野マリ子 斉藤美穂 村山勇 石井真未枝 財部仁子	本事業の日 本語教室・指 導者養成講 座について 具体的内容 の承認 日本語教室・ 指導者養成 講座の広報 の徹底と申し	1. 日本語教室の学習者募集要項(日 本語教室の具体的内容)についての 報告—長嶋より→全員で承認 2. 指導者養成(「退職教員等日本語 教育指導者養成講座」)についての内 容を報告—長嶋より→全員で承認

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
				斎藤明子 元村尚美 内藤儀 田中香織 長嶋昭親 延原臣二 湯口恵 高橋博子 (17名出席)	込み現状報告	
3	平成 25 年 1 月 31 日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫 県国際交流 協会研修室	丸山巖 三木由美子 村松好子 北村俊樹 芝裕子 矢野真也 水野マリ子 斉藤美穂 村山勇 石井真未枝 財部仁子 元村尚美 内藤儀子 長嶋昭親 延原臣二 湯口恵 高橋博子 (17名出席)	本事業の日本語教室実施状況の報告 本事業の指導者養成講座の実施状況の中間報告 本事業の教材(自己主導型学習のためのマニュアル)の作成状況の中間報告	1.日本語教室では10名定員のところ12名応募1名キャンセルで出発、最終回まで残ったのは8名を報告—長嶋より→全員で承認 2.指導者養成(「退職教員等日本語教育指導者養成講座」では25名定員のところ24名応募で出発 あと1回あるが修了予定者21名を報告—長嶋より→全員で承認 3.教材マニュアルは日本語、ベトナム語、英語、中国語の4言語で作成し、教室の学習者および支援者に配布を報告—長嶋より→全員承認
4	平成 25 年 3 月 14 日 15:00~17:00	2時間	(公財)兵庫 県国際交流 協会研修室	丸山巖 村松好子 北村俊樹 芝裕子 矢野真也 水野マリ子 斉藤美穂 村山勇 石井真未枝	本事業の最終報告と今後の課題について	1. 本事業が文化庁への報告をのぞいて無事修了した事を報告—長嶋より日本語教室の学習者募集要項(日本語教室の具体的内容)についての報告—長嶋より→全員で承認 2. 課題について ①自己主導型学習のための教室運営については、経費、人的リソースの面で実行していくのにはとても難し

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
				財部仁子 奥田純子 元村尚美 内藤儀子 田中香織 長嶋昭親 延原臣二 湯口恵 高橋博子 (18名出席)		い。一長嶋 ②日本語学習支援法として自己主導型学習を取り入れていくことは大切でこれをいかに啓蒙していくかが課題 —出席者 ③将来、自己主導型学習のためのセンターを創生していく必要—出席者



【写真】第4回運営委員会(平成25年3月14日)

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 「自学自習のための日本語教室」

(2) 目的・目標

下記の目的・目標を達成するために教室活動を以下のものとした。

- ① 支援者と共に、学習者の日本語ニーズ、日本語能力、学習経験などを記した学習者独自のポートフォリオを作成する。
- ② 長期(3ヶ月)目標、中期目標(1ヶ月)短期目標(1週間)を設定し個々の学習内容(教材など)、学習方法を決める。
- ③ ②の評価を協働して行い、自主学習の短期目標を設定すると共に、中期、長期目標の

微修正を行う。

④学習継続のために新たな学習戦略をたてる。

(3) 対象者

神戸市内で日本語学習を望むもの

(4) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

青木直子教授が作った「自分で決める日本語学習ガイドブック」(英語・中国語・ベトナム語版もあり)を学習者・スタッフ全員に配布した。学習支援内容を決定する際、青木教授が作成したポートフォリオや文化庁の「生活者としての外国人に対するカリキュラム案」を使用した。また、毎回100冊以上の教材・テキストを用意し、学習に使用してもらった。また、パソコン2台とプリンターを用意し、インターネット教材の利用方法を教えて、利用してもらった。

(6) 受講者の総数 10 人

(出身・国籍別内訳 中国 6人、インドネシア 1人、ミャンマー 1人、ネパール 1人、パナマ 1人)

(7) 受講者の募集方法

受講者を募集する案内文を日本語のほか、英語、中国語、ベトナム語に翻訳し、A3の紙に裏表で4か国語分を書いたチラシを約700部作成した。そして神戸市内や周辺地域にある日本語教室や、留学生がいる主要大学などに送って配布を依頼した。日本語教室数か所については、HNVNの代表らが訪問し、趣旨を説明して学習者への呼び掛けを依頼した。会場の近くにある神戸大学海事科学部では留学生向けのメールに流してもらった。また、HNVNのホームページなどでも募集文を掲載した。(チラシ添付)

(8) 日本語教室の具体的な内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	H24 11月 10日 10:00 ~ 12:00	2	深江会館	10	中国 6人 インドネシア1 ミャンマー1 ネパール1人 パナマ1人	目標設定 長期、 中期、 短期	日本語のレベル別に3グループに分かれて、アドバイザーとともに目標を設定した。目標が書けた学習者は会話パートナーと会話	4	青木直子 中村恵美 飯塚和彦 尾形文	3	安達淳子 谷先春代 高橋博子	教材「日本語ポートフォリオ」ほか

							の練習をした。					
2	H24 11月 17日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	8	中国 5 インドネシア 1 ミャンマー1 パナマ1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	青木直子 中村恵美 吉田晃高 尾形文	3	安達淳子池 田佳奈子 谷先春代	教材 多数
3	H24 11月 24日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	7	中国 4 ミャンマー1 ネパール1 パナマ 1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	吉田晃高 中村恵美 飯塚和彦 高橋博子	3	安達淳子池 田佳奈子 気賀優文子、	教材 多数
4	H24 12月 1日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	7	中国4人 ミャンマー1人 インドネシア 1 パナマ 1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	吉田晃高 中村恵美 飯塚和彦 高橋博子	3	池田佳奈子 長尾正康岡 本典子	教材 多数
5	H24 12月 8日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	6	中国5 パナマ 1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	青木直子 飯塚和彦 高橋博子 栄苗苗	3	安達淳子池 田佳奈子 谷先春代	教材 多数
6	H24 12月 15日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	9	中国6 インドネシア 1 ミャンマー1 パナマ1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	吉田晃高 中村恵美 飯塚和彦 高橋博子	3	安達淳子片 山千鶴谷先 春代	教材 多数
7	H24 12月	2	深 江	7	中国5 インドネシア1	振り返り と	3グループに分か れて、1週間を振り	4	青木直子 中村恵美	3	安達淳子池 田佳奈子	教材 多数

	22日 10:00 ～ 12:00		会 館		ミャンマー1人	短期目標 設定	返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。		尾形文 高橋博子		長尾正康	
8	H25 1月 12日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	7	中国4 インドネシア1 ミャンマー1 パナマ1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	吉田晃高 中村恵美 飯塚和彦 尾形文	3	安達淳子池 田佳奈子 片山千鶴	教材 多数
9	H25 1月 19日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	7	中国4 インドネシア1 ミャンマー1 パナマ1	振り返り と 短期目標 設定	3グループに分か れて、1週間を振り 返るとともに、きょう の目標を設定。会 話パートナーとの 会話など、それぞ れの活動をした。	4	青木直子 中村恵美 飯塚和彦 尾形文	3	安達淳子池 田佳奈子 谷先春代	教材 多数
10	H25 1月 26日 10:00 ～ 12:00	2	深 江 会 館	9	中国5 インドネシア1 ミャンマー1 ネパール1 パナマ1	10日間の振り返り、今後の目標設定	グループ毎に10日 間の振り返りをする とともに、今後の学 習方法についてア ドバイスを受けた。 そして10日間の学 習について意見を述 べ合った。	4	吉田晃高 中村恵美 飯塚和彦 尾形文	3	安達淳子池 田佳奈子 気賀優文子、	教材 多数

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

・11月10日(第1回)

出席した学習者は日本語能力に応じて3グループに分けられた。そして、それぞれのグループのアドバイザーが各国語で書かれたポートフォリオを手渡し、長期目標、中期目標、短期目標を考えるよう求めた。戸惑う学習者もいたが、アドバイザーと話し合っただけで全員なんとか10週間分の目標を書き入れた。そして、その日に行うべき短期目標に沿って、学習者ごとに1日目の学習に取り掛かった。このうちパナマのAさんは3人いる会話パートナーの1人と「自己紹介の方法」を練習した。最初はテキストをのちに練習したが、最後には1人でまとまった自己紹介をすることができるようになった。

・11月17日(第2回)

3グループに分かれた学習者はアドバイザーの指示で、この1週間に行った学習を振り返った。この日行う学習計画を15分きざみの計画表に書き入れ、この計画に基づいて活動を開始した。ミャンマーのBさんは読書を選択し、『レベル別多読ライブラリー』の中から「忠犬ハチ公」の話を選択して読んでいた。中国のCさんは電話でのやりとりをしたいと希望し、会話パートナーを相手に「伝言」の仕方を勉強した。敬語の使い方が難しいようで、無理に敬語を使わない方法を教えてもらった。

・11月24日(第3回)

学習者たちはこの日も3グループに分かれて振り返りをした後、当日の学習計画を立て、それぞれの活動に取り組んだ。介護の仕事をしているネパールのDさんは、パソコンの使い方を勉強したいということで、担当者からインターネットの接続や検索の仕方などを教えてもらい、自分で練習した。しかし、自宅にパソコンがないため、基本的な操作方法を理解するのに手間取っていた。中国のEさんは助詞の使い方を学びたいと希望し、アドバイザーから助詞「に」の使い方を教えてもらった。そして、会話パートナーと助詞に重点を置いて会話練習をしていた。



アドバイザーとの打ち合わせ



今日学習のためリソースから教材を選ぶ

(10) 目標の達成状況・成果

教室終了後、学習者に対してはアンケートを実施し、スタッフについては2月17日に反省会を開いて、目標の達成状況や成果について話し合った。

今回の教室は、「日本語の自己主導型学習を目指す」という実験的な取り組みだったが、応募した学習者が趣旨を十分に理解できていなかったこともあって、完全に成功したとは言えないものの、まずまずの成果はあったと評価している。その理由は、①学習者のうち7人が初日に作成した中期目標に近づくことができたこと、②教室にスタッフとして関わった日本語ボランティア全員が、自己主導型学習に必要なアドバイジングの方法論をある程度理解することができたことにある。スタッフ全員は、今後それぞれの教室で自己主導型の学習方法を取り入れてくれるものと期待される。

アンケート

(平成25年1月26日実施 回答者7名)

1. この^{きょうしつ}教室をどこでお知りになりましたか。
 - ・教室で知った 2
 - ・東灘日本語教室で紹介された 1
 - ・友達から知った 2
 - ・知人から知った 2
2. 教室の^{ないよう}内容について
 - (1) あなたが日本語を^{べんきょう}勉強するために^{やく}役に^た立ちましたか
 - a 役に立った 3
 - b まあまあ役に立った 3
 - c ふつう 1
 - d あまり役に立たない 0
 - e ^{ぜんぜん}全然役に立たない 0

理由・ご意見を書いてください。

 - ・パソコンやいろいろなテキストがあつて便利でした
 - ・学習者が何を勉強したいのか先生は事前には知らないなので先生の指示はちょっと不十分かもしれない
 - ・自分の目標に[¥]によって勉強するのがよい
 - ・いろいろな経験ができました
 - ・パソコンでの勉強がよかった
 - ・先生がとてもいねいに指示をしてくれた
 - (2) ほかの日本語教室とくらべて、どう^{おも}思いますか。
 - ・自分がしたいことができ良かった 2
 - ・家が近くてよい 1
 - ・授業はおもしろいと思います 1
 - ・おもしろかったです。先生は親切でした 1
 - ・他の学習者と知り合いになれてよかった
 - (3) ^{さいしょ}最初の日^{もくひょう}に立てた^{たっせい}目標は達成できましたか
 - ・大体できました 1
 - ・大体達成できました 1
 - ・達成できませんでした。1
 - ・はい 2
 - ・忙しくてできませんでした 2
 - (4) 10回という^{かいすう}回数^{みじか}は
 - a 短かった 1
 - b ちょうどよかった 6

c 長^{なが}すぎる 0

理由・意見

- ・ 回数はよかったが、毎回の時間ちょっと長すぎたように感じた
- ・ 2週間に一度の頻度で開催してほしいとおもいます
- ・ 継続して欲しい

(5) アドバイザーについて

- a よかった 2
- b まあまあよかった 4
- c ふつう 1
- d あまりよくなかった
- e 全然よくなかった

理由・意見

- ・ 熱心で親切な人です
- ・ 私の希望をよくきいてくれた

(6) 会話パートナーについて

- a よかった 4
- b まあまあよかった 2
- c ふつう 1
- d あまりよくなかった 0
- e 全然よくなかった 0

理由・意見

- ・ 1人でなくいろいろな人と会話できた
- ・ 会話は楽しかったです
- ・ 会話の時間がちょっと少なかったです

3 教室を終わって

(1) ここで学んだ日本語学習法^{にほんごがくしゅうほう}を続けますか

- ・ 自分でできることをしてみたいと思います 1
- ・ はい 1
- ・ 続けたい 2
- ・ 自分の興味よって勉強した結果が一番いいと思う 1
- ・ もっとコンピュータで勉強していきたい 1
- ・ 自分のペースで勉強できる 1

(2) これからのこと及び全体^{およげんたい}を通じてのご意見・ご感想^{かんそう}

- ・ 機会があれば勉強を続けます。先生や生徒が笑う顔をずっと覚えています 1
- ・ 良い日本語学習法と良い先生によって、日本語能力を引き上げました。皆さんどうもありがとうございました 1
- ・ 良かったです 1
- ・ 今後も自分の勉強を続けていきたい 1
- ・ 回答無し 3

(11) 改善点について

10 日間という短期の日本語教室では、自己主導型学習にふさわしいレベルの学習者を集めて、長期的な目標に取り組んでもらうのが困難なため、より長期的な取り組みをする必要がある。また、図書資料やパソコンなどの学習用機材は、常設の日本語教室や公的な施設にあつてこそ有効であり、その使用方法を指導することによって自己主導型学習の考え方を広めたいと考えている。さらに、今回の方法ではある程度のスタッフ数を確保する必要があるため、この点からも既存の教室・団体と提携することが重要になる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称「退職教員など対象の日本語教育指導者養成講座」

(2) 目的・目標

下記目標を達成するために受講生は；

- ①日本国内とりわけ兵庫県内に住む外国人の生活事情・状況を学ぶ
- ②同外国人当事者の日本語学習経験から多様なニーズや学習内容を学ぶ
- ③ 受講生自身の言語学習経験から言語学習方法を検証する
- ④日本語学習支援方法を学ぶ
- ⑤学習者が自主的に学ぶことを支援する方法を学ぶ(ポートフォリオ活用法など)
- ⑥ 兵庫県内の地域日本語教室などで活動する方法を学ぶ

(3) 対象者

- ① 兵庫県内で教職経験があるものおよび平成 25 年退職希望者で、日本語学習支援活動を通して、地域に住む外国人やその子どもたと協働して多文化共生社会創造に貢献したいと思う人。
- ② 上記に準じる日本語学習支援経験 2 年以上のもの

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

・講師独自のレジュメ

日本語学習内容について標準的カリキュラム案を参考にしつつ、「日本語学習能力評価について」の日本語学習ポートフォリオを活用した。

(6) 受講者の総数 24 人

(出身・国籍別内訳 日本籍 24 人)

(7) 受講者の募集方法

- ① 兵庫日本語ボランティアネットワークのDM
- ② 兵庫県教育委員会から県内教育事務所および兵庫県立学校長宛のメールにより県内小中高等学校などへ知らせる
- ③ 子ども多文化共生センターのHP

(8) 養成・研修の具体的内容

	開講 日時	時間数	場所	参加 人数	取組の テーマ	授業 概要	指 導 者 / 講師	補助者	備考
1	H24 年 11 月 17 日 14:00 ~ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	22	オリエンテー ション 日本語学習 者の学習動 機	受講生の自己紹介 日本語学習支援で なぜ自己主導型学 習が大切か	長嶋昭親 青木直子	高橋博子	講師レジ ュメ
2	H24 年 11 月 24 日 14:00 ~ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	19	自己主導型 学習とは何 か	学習者が自己主導 が学習の力をつける ためには支援者が [教えない]ことが肝 要、そのためには何 をするか？	小林浩明	高橋博子	講師レジ ュメ
3	H24 年 12 月 1 日 14:00 ~17: 00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	19	言語学習ア ドバイジング とは何か	学習者が自己主導 が学習の力をつける ためには支援者が [教えない]ことが肝 要、そのためには何 をするか？	吉田晃高	高橋博子	講師レジ ュメ
4	H24 年 12 月 8 日 14:00 ~ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	18	アドバイジ ングの言葉	アドバイザーが傾聴 すると共にポジティ ブな見方や表現を行 い学習者が具体的 な行動や気づきを促 すための質問方法。	青木直子	高橋博子	講師レジ ュメ
5		3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	20	目標設定	学習者の学習計画 実行をサポートする ツールについて(日 本語ポートフォリオ	吉田晃高	高橋博子	講師レジ ュメ

	開講 日時	時間数	場所	参加 人数	取組の テーマ	授業 概要	指 導 者 / 講師	補助者	備考
			スタコ うべ			の活用)			
6	H24 年 12 月 22 日 14:00 ～ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	16	学習者の学 習計画実行 をサポートす るツールに ついて(日本 語ポートフォ リオの活用)	自己主導型学習と 教師指導型学習 学習の前提と学習プ ロセス	尾形文	高橋博子	講師レジ ュメ
7	H25 年 1 月 12 日 14:00 ～ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	18	自己主導型 学習に使え るリソース	リソースとは何か？ リソースの種類、分 類 Web 上のリソース	青木直子 脇坂真彩 子	高橋博子	講師レジ ュメ
8	H25 年 1 月 19 日 14:00 ～ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	22	学習活動の レポートリー	あなたの学習方法 は？ 学習ストラテジー、 学習の方法の探し 方	小林浩明	高橋博子	講師レジ ュメ
9	H25 年 1 月 26 日 14:00 ～ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	20	子ども達の 自己主導型 学習	子どもへの支援につ いて 子どもの持つ権利に ついて 子どもの言語習得と 自己主導型学習	長嶋昭親	高橋博子	講師レジ ュメ
10	H25 年 2 月 2 日 14:00 ～ 17:00	3	神戸市 生涯学 習セン ターミ スタコ うべ	21	自己主導型 学習の取り 入れ方 今後の支援 活動 修了式	講座のまとめ 学校での支援活動 について 地域日本語教室で の支援活動について	尾形文 村松好子 長嶋昭親	延原臣二	講師レジ ュメ

(9) 特徴的な授業風景

1. 7日目(平成 25 年 1 月 12 日)講師 青木直子・脇坂真彩子

今回の講座の主要テーマである自己主導型学習のための支援(アドバイジング)法の中で、支援者(アドバイザー)の助言でと学習者が学習内容を決定していく上で重要な位置を占めるのがリソースである。同時開催している「自己主導型日本語教室」でリソースの一部を本講座で運び、リソースを講座内で展示しながら、「リソースのとは何か、リソースの種類」について、学習をした。これらのリソースは、教材作成事業の「自己主導型学習のためのマニュアル」にも記載している。また、学習者が自己学習する上で、WEBを利用することが有用である事から、WEBで見られる代表的なリソースとアクセスの方法を講師の用意した CP によって提示し、受講生が実際に班別に分かれ試みた。

② 9日目(平成25年1月29日) 講師 長嶋 昭親

今回の講座では、生活者としての外国人への日本語学習支援についてでしかも自己主導型学習を支援するノウハウであった。その中で、受講者の大半が教職経験者、在籍者である事から、この日の講座だけ、生活者としての外国人の子どもたちを対象とした講義内容とした。前年度までの4回分を1回に集約したので、教師主導型での学習支援のノウハウは取り扱わなかった。しかし、子どもたちの多様な言語獲得(母語、第二言語)経験に応じた自己主導型学習を活用することによって、子どもたちの本来もつ、能力を伸ばす事ができるという講義内容であった。



講座での班別討議(H.25.1.26)



講座最終日受講生交流・反省(H.25.2.2)

(10) 目標の達成状況・成果

これまで学校教育は教師主導型で行われてきた。在日外国人への日本語学習支援でなぜ教師主導型でなく自己主導型が大切かということ、又その自己主導型を支えるためにポートフォリオ、アドバイジング、リソースへのアクセスが必要であるが、この講座の目的であるアドバイジングの重要性を受講者は理解できたと思う。講座最終回に講座の内容についてアンケートを取った。講座の内容についてどう思ったかという質問に受講者のうち21名が内容についてよかった、まあまあよかったと答えている。理論は習得できたが活動にとり入れて支援するのは自分の力不足でまだまだと思っている人が多かった。

:*****

アンケート（最終日 2013 年 2 月 2 日実施：22 名回答）

1. この講座をどこで知りましたか。（複数回答あり）

- a. 学校で 6
- b. 兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 5
- c. 知人から 3
- d. 地域の日本語教室で 4
- e. その他 4

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 17
- b. まあまあよかった 4
- c. ふつう 1
- d. あまりよくなかった 0
- e. 全然よくなかった 0

理由、意見：

- ・ ワークショップは楽しいが理論を習得する時間をもっと多く持ちたかった。
- ・ 教師主導型から考え方を変えることがなかなかですが、自己主導型学習は学び続けるよい学習だと思った。

(2) 期間（3 時間×10 回）について

- a. 短かった 0
- b. ちょうどよかった 15
- c. b. ふつう 6
- d. d 長すぎる 1

理由、意見：

- ・ 土曜日は時間が取りづらい。
- ・ 時間が長すぎて少しダレル。
- ・ 年始年末までに集中して講座がある方がいいと思います。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった 14
- b. まあまあよかった 6
- c. ふつう 1
- d. あまりよくなかった 1
- e. 全然よくなかった 0

理由、意見：

- ・ 専門的なこと、実践的なこと色々な角度から指導いただき勉強になりました。

・自己主導型学習の実践例が短時間の見学だけだったので、もっと実践事例に基づいた講義

がほしかった。

3. 講座を受けて

(1) 日本語学習を必要とする「生活者としての外国人」の事情が

- a. よくわかった 8
- b. まあまあわかった 9
- c. ふつう 3
- d. あまりわからなかった 2
- e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

・切実な生活用語の必要性と親子関係の現実像が実感できました。特に幼児、子ども
の日本語学習と母語の確立の不可避的事情を理解した。

・実体験が伴わないので明確にわかったわけではありませんが少し理解できました。

(2) 日本語学習支援法(自己学習型)が

- a. よくわかった 3
- b. まあまあわかった 15
- c. ふつう 3
- d. あまりわからなかった 1
- e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

・実際のところ環境やレベルに応じて従来型の指導と支援の組み合わせになるのでは
ないだろう

か。

・理解はできましたが現実的には課題がたくさんあると思います。

(3) 「外国」から来た児童生徒への支援法（自己学習型）が

- a. よくわかった 4
- b. まあまあわかった 7
- c. ふつう 7
- d. あまりわからなかった 4
- e. 全然わからなかった 0

理由、意見：

・日本語ボランティアを目指す上で自己学習型学習とそれを支える言語学習アドバイザーについて理解が深まった。

・遊びの中での学びが大切なのがよくわかった。

4. これからのこと

- ① 学校や地域で日本語学習支援に関わっていききたい 15
- ② 今は、関われないが、将来関わりたい 5

- ③ わからない 1
- ④ さらに研修を受けて考える 0
- ⑤ 関わりたくない 0

これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見

- ・ 兵庫県の実情の中で一般的理論をどう実践に結びつけるのかが今後私が考えていかなければならないと思いました。
- ・ 自己学習型学習はどういうものかは多少分かりましたがはたしてこの方法で学習していくのが良いか否かは多少の疑問があります。
- ・ 一つの考え方として自己学習型学習というものは理解するが効果の検証の必要が有るのではないか。毎回受講者の方へ課題投げかけられるがグループ内でディスカッションをし終了というパターンが多く、どうあるべきかという方向を示して頂けないのでフラストレーションがたまるが多かった。

(11) 改善点について

今回は新しい試みとして、同時開催中の教室での学習(アドバイザーの助言により、自主学習や補助者(会話パートナー)と共に会話練習をしているところを見学する機会を作ったのでより、講座の内容の理解を深めたと思うが、もうひとつ踏みこんで受講者に実際にやってもらうプログラムを講座の中に組み込むことは有効ではないかと思う。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

「自分で決める日本語学習 (学び方を学ぶためのガイドブック)」、リソースリスト付、

(2) 対象

- ① 自学自習を目指す学習者
- ② 上記の支援者(アドバイザー)

(3) 目的・目標

地域日本語教室で学ぼうとする生活者としての外国人にとって週1回1.5~2時間の学習では、日本語習得がとても難しく、道半ばで日本語学習を断念するが多い。そうした学習者が学習者自らがニーズに応じた目標を設定し学習目標を短期、中期、長期的に定め学習者の最も得意な学習法で、日本語学習をする。

(4) 構成

- 1) 学習ガイドブック ; ① 自主学習目的の明確化、② 自己評価と学習目標の設定、③ リソースの選択と使い方、④ 実行計画の策定、⑤ 学習活動の記録、
- 2) リソース ; 自主学習に有用な教材の一覧

(5) 使い方

学習者自身がガイドブックの記載に従って、目標設定 ⇒ 目標にあったリソースの選択

⇒ 実行計画の策定 ⇒ 自主学習 ⇒ 成果の振り返り、のステップで学習を進める。
日本語教室においては、疑問な点や判らない点があればアドバイザーに質問したり
相談したりしながら進めることも可能。

(6) 具体的な活用例

日本語教室では次のような活動が可能となる。

- ・ 学習者はガイドブックに記載されているアドバイスに従って、日本語ポートフォリオを見ながら、自分の現在に実力を評価し、学習目標を設定する。
- ・ そして自分の学習目的に合う自分の好きなリソース、好きな勉強方法を選ぶ。
- ・ リソースの選択に当たっては、準備されている各種教材のリソースリストを参照しながら自分の目的と自分の好きな学習方法に適した本を選択する。
- ・ またリソースは教科書や文法書に限らず、日本に関する本、漫画や小説、CD、パソコンを使ってインターネット・リソースなど広い範囲から自由に選ぶ。
- ・ 学習者は各自自分が作ったプログラムにそって自主学習を進めるが、勉強の進め方について日本語教室のアドバイザーに相談することもできる。
- ・ また会話の練習をしたい人は、会話パートナーと会話をすることができる。

(7) 成果物の添付

- ・ 「自分で決める日本語学習（学び方を学ぶためのガイドブック）」日・英・中・越-語、
- ・ 「リソース一覧」
- ・ 「日本語ポートフォリオ」・・・ www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp/support.html

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

兵庫県では阪神淡路大震災(1997)以降 17 年間に地域日本語教室が各地に生まれ(約80)、ボランティアが中心となって「生活者としての外国人」に日本語学習支援を行ってきた。その結果、彼らが安心して生活でき、地域社会に参加できる体制も徐々に整ってきた。しかし、地域日本語教室での支援法が旧来の文型積み上げ方式且つ教え込み型であるので、多忙な彼らにとって、週 1 回 1.5 時間~2 時間の活動では日本語習得は難しい。そのために習得半ばで教室参加もままならなくなるような状況が厳然としてある。それらの状況を打開するには学習活動を彼ら自身の手ゆだねることが重要である。そのため本事業では以下を目的とする。

1. 学習者が日常生活の中で自ら学びうるような学習方法を自らが作り上げていくような(=日本語自主学習)システムを構築することを目的とする。
2. 過去 5 年間本ネットワークが文化庁委託事業として実施した「退職教員等対象の日本語教育指導者養成講座」のノウハウを活用するとともに、退職教員等のキャリアを活用して日本語自主学習のための協働者となるべき人材を育成する事を目的とする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

「生活者としての外国人のための日本語学習支援において文型積み上げ型教材を使用した支援が兵庫県内の大半の地域日本語学習支援教室で行われているのが現状であるが、本事業の取り組みを通して、「生活者としての外国人」が、日常生活の中で自ら学ぶような学習方法を自らが作り上げていくような(=日本語自主学习/自己主導型学習)のシステムが何とか形になった。

① 教室:

「自学自習のための日本語教室」を運営、実施していくために教材「自学自習のためのマニュアル～自分で決める日本語学習（学び方を学ぶためのガイドブック）」、リソースリスト付、)を参考しながら、支援者(アドバイザー)の助言のもとで学習者が自習的学習の方法を学べた。ただ、教室の開催日数が週1回で10回であったので、学習者の長期目標や中期目標の達成までは検証できなかったが、一回一回の学習で決めた短期目標はある程度達成できた。

② 指導者養成講座:

「退職教員など対象日本語教育支援者養成講座」は、今回、本事業での3事業の一体化を目指したため過去5年してきた講座内容を大幅に変更した。教室でここで養成した受講者が自己主導型学習の意味や自己主導型学習をすすめるための支援法(アドバイジング)——作成教材内容をより理論的、実践的なものを提示した。講座内容が理念的なこと多いので受講生にとってイメージを持つことが難しいかと懸念したが、受講生に同時並行して午前中に行っている教室見学の機会を設けたので、教室運営法、そこでの支援者(アドバイザー)の役割や教室でのリソースの位置や学習者と補助者(会話パートナー)のやりとりが具体的に提示できた。

③ 教室における学習者へのアンケート(前述)や指導者養成講座受講生へのアンケート(前述)により本講座の検証を行った。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ① 本講座を企画するに当たり**標準的なカリキュラム案**の趣旨を理解し、「生活者としての外国人」への日本語学習支援内容、それに基づく支援法そして支援者養成講座の内容を決定するにあたり、大いに参考になった。
- ② 本講座の趣旨が、学習者の自己主導型学習を支援システムの創生であるので、**標準的なカリキュラム案**は一つのリソースとして活用した。
- ③ 以上のようなわけで、その活用については今後の事業(次年度)においても是非活用していきたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

① 教室「自学自習のための日本語教室」は、神戸市東灘区の同区内にある「東灘日本語教室」のスタッフの協力により、深江会館で開設した。教室での補助者「会話パートナー」も「東灘日本語教室」の日本語支援ボランティアに協力をしてもらった。この実践成果を「東灘日本語教室」をはじめ、兵庫県内の「地域日本語教室」へ兵庫日本語ボランティアネットワークの研修会(年4回実施)やニュース(年4回発行)を通して報告し、「自己主導型学習」を啓蒙していきたい。

② ひょうご日本語ネット(=本事業運営委員会メンバー)での報告を中心に本事業の実践報告を行い成果を発表し、地域日本語学習支援活動において、「自己主導型学習」が将来、有効な支援法であることを確認した。

* ひょうご日本語ネット: 県内の6団体、(公財)兵庫県国際交流協会、(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部、神戸日本語教育協議会、ひょうご日本語教師連絡協議会、子ども多文化共生センター(兵庫県教育委員会)、兵庫日本ボランティアネットワークのネットワーク組織で毎月1回例会を持ち、6団体以外、兵庫県国際課、神戸市国際課、神戸市教育委員会などが参加している。

(5) 改善点, 今後の課題について

- ① 教室については、リソースの確保、スタッフ、支援者(アドバイザー、会話パートナー)などにおいて、民間の地域日本語教室では負担が多い。そのために、本事業の趣旨「自己主導型学習」を勧めるためにこの何らかの形で実践を継続し、積み重ねていくことで、兵庫県内の多くの地域日本語教室が取り組めるようにしていきたい。
- ② 指導者養成講座については、文化庁「生活者としての外国人」のための標準的なカリキュラム案の趣旨や内容を次年度の講座では1回(3時間)とり、より啓蒙に努力したい。